

# 大井第一小学校

## 同窓会会報 5号



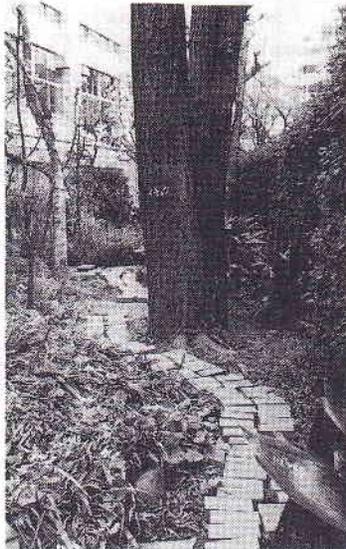
大井第一小学校同窓会 発行責任者 津田 照通 2003年3月



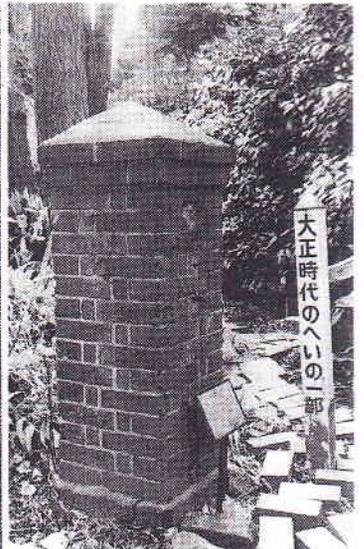
ひみつ いけ



タブの木(左) ヒマラヤ杉(中央)



ひみつのこみち



大正時代のへいの一部

門 柱

### 「かけがえのない思い出」

教頭 吉井 康博

大井第一小学校に赴任して、一年が過ぎようとしています。前任校は小規模な学校でしたので、18年ぶりの大規模校の生活で戸惑いや失敗が数多くあります。

しかし、同窓会の皆様や地域の方々の本校を愛し、応援してくださるお心に支えられています。たいへん感謝申し上げます。

さて、玄関を入ると左手に校歌の歌詞が、さらに、校庭を歩いてみると、ミミズク像を始め、一年生の教室の窓の下を彩るモザイクタイル、そして、ヒメリンゴやザクロなど、卒業記念としていただいたり卒業して何年か後に植樹されたりした樹木が見られます。

2月の今の時季は正門に入った右手の紅梅が鮮やかな赤い小さな花を咲かせています。

四季を通してしっかりと自分の存在を主張しています。これら記念品に本校を巣立った方々の往時の思いを感じることが出来ます。

母校に自分たちの居た証が残っているということはとても嬉しいことでしょう。開校当時の面影はさすがにありませんが、いつでも皆さんの

小学校時代を思い出していただく環境を守っていくつもりです。

私も先日、卒業した母校を36年振りに訪ねてみました。しかし、校舎内の造りは勿論のこと、校舎の外観も校庭の様子も、校舎裏の木々も、通っていた頃とはまったく違っていました。何かと当時の様子を伺える所はないかと歩き回ってもありませんでした。とても残念で、私の小学校時代の思い出が崩れていくのを強く感じました。

大井第一小学校は、校舎の様子は変遷しても処所に通われた頃の面影が残っているはずですが、今でも時々、年代にかかわらず卒業生の皆さんが同期で同窓会を催しています。気楽にお訪ねください。皆さんの母校に奉職している私達は、皆さんのお顔を拝見できることをいつでも待ち望んでいます。

### 「思い出すことなど」

旧職員 S 29 / 40 笹岡 文男

#### ①わが教室

戦後9年目に本校職員となった。教室不足のため、低学年は2部授業。私は中学年を担当し、校庭の南にあったプール付きの教室に入った。プールサイドの真中に壁を設け、

互いに向き合う2教室の東側だった。日光は細長い教室の奥深くまで浸入し、物音は校内だけでなく、街のさざめきまで教室に届けた。

この教室の当番は、プールの水をバケツで汲み上げ、床を流せば半ば完了という手軽さと遊び感覚のため、子どもに好評だった。

ところが、隣りの組を担当するTさんが、彼の組の子どもを叱るため大声を發したとたん、私のクラスの子が縮みあがり、思わず居住いを正するという場面もあった。私の一喝も、同じ効果を与えたに違いない。

私は知を求める子らに囲まれ、この「うなぎの寝床」の道場の庵主になった気分を毎日過ごした。

## ②網を引く

昭和30年代。内房岩井臨海第3日目。4時半にぐっすり眠っている子どもを叩き起こし、5時に海岸集結。汀には、前日に仕かけた地引き網につながらる網が左右2本置かれ、30メートルほど奥まった砂地に網を巻きとる器械が2台設置されていた。子どもは二手に分かれ、汀から器械まで繰り返し引いた。大漁を夢みながら。

夜が明けきるころ、輪が縮まり、網の中の魚影の踊るのを見た。ハマチが多かった。「先生。爪で小魚の頭

と内蔵をとり、波で洗って食べた漁師さんがいたよ。」と告げる子もいた。その日と帰京する朝まで、魚料理が続いた。近くに宿泊する学校にも、お裾分けしたという。学校に着いたのは夜分に入っていた。じゅうぶんに年をとった私の記憶は曖昧である

## 「大井第一小学校の思い出」

旧職員 S 60 S H 6 大橋 稔

私が大井第一小学校に赴任したのは18年も前になります。品川の前は、大田区に勤務していましたが、大一小に異動が決ったとき、当時の校長先生から「伝統校の素晴らしい学校に決まったよ。私も一度は勤務したいと思っていた学校だよ」と言われたことを覚えています。実際に勤務するようになって、私はその言葉を実感することができました。転勤して一番懐かしく、そして嬉しく思ったのはクラス表示です。私は群馬県の出身ですが、小学校の6年間を「竹組」で過ごしました。大一小も松竹梅（私の育った小学校は月組以降はありませんが）でしたので、何の違和感もなく受け込むことができました。また、地域や保護者の方々の協力

体制が充実していることにも驚かせられました。特に、PTA活動が充実しており、役員さんを中心に多くの方々に助けていただきました。

もう一つ忘れられない思い出は、「大一ファイターズ」の活動です。サッカー好きの子ども達と練習や試合を通して、多くの思い出をつくることができました。薄暗くなると、全ての教室の電気をつけて遅くまで練習したり、休日は毎週のように試合をしたりしながら、少年サッカーにどっぷり浸かった生活でした。ときには休みたいと思ったこともありましたが、子ども達の熱気と保護者の方々の協力で続けることができました。品川区長杯で優勝したときは、子ども達と共に喜び合ったことを思い出します。

多くの楽しい思い出と共に、貴重な体験をさせていただいた大井第一小学校に深く感謝しています。今後の益々の発展を願っています。本当にありがとうございました。

## 「思い出すこと」

昭和23年卒 土肥 義尚

昭和十九年、大井第一国民学校三年生の夏に戦禍を避けるべく学童疎開が実施され、私は母の郷里の愛知

県の学校に転校した。翌二十年八月十五日、四年生の夏に疎開先で終戦を迎えた。抜けるような青空の暑い日であった。同年十月に早々と帰京して驚いた。懐しい大井町の駅を降りたら、まともな形の残っているのはカネボウの工場（現阪急ビル）のみで、あとは一面見渡す限りの瓦礫の山。三つ又の踏切りから見上げた三ツ又商店街は家が一軒もなく、風雨に晒されて赤錆びた鉄骨やトタンで真っ赤になった瓦礫の山が細い道の両側に延々と続き、坂の上には夕陽を背に黒々と富士山のシルエツトが見えていた。我が家は奇跡的に焼け残ったが、近くの大井第一は惨憺たるものであった。わずかに往時を偲ばせるものは旧講堂の防火壁と思われるコンクリートの壁のみで、それが敷地一面の真っ赤な瓦礫の中に巨大な王将の駒を立てたようにポンと立っていた。焼け出された大井第一の生徒は浜川小学校の校舎を借りて二部交代で授業を受けていた。六年生になった頃ようやく学校の焼け跡の整理が終り、池上通りに面して木造平屋建ての第一号校舎の建築が始まった。何としても卒業式には間に合わせてやりたいという葛生校長以下全職員並びに父兄の大変なご努力で、昭和二十三年三月やっと屋根

と床板は張り終ったがまだ窓ガラスも入っていない吹き抜けの新校舎で卒業式と謝恩会が行われた。私たちはそこで父兄の心尽くしの当時貴重な赤飯を頂いて大井第一を巣立ったのである。卒業後も何かと学校にご縁があり、懐かしい思い出が数々ある。まず卒業直後に岡田一郎氏が中心となって、卒業生一同で焼失した校旗を新調しようという運動が起り、私も各学年の幹事とともに級友に協力をお願いして寄付集めに奔走したことがあった。現在の校旗は多分この時のものである。その後私の父が初代のPTA会長に就任した事もあり、PTAがらみの思い出もある。とりわけ二代目会長になられた司忠氏や三代目会長の杉山元信氏らとご一緒に、初期のPTAが手がけた校歌の制定とバス停の改称は印象深い。校歌は当時放送作家として大活躍の先輩、北條誠氏に作詞をお願いし、服部正氏の作曲による事はご承知のとおりである。またバス停は、戦前からの「札場」を都庁や区役所、東急等と折衝して「大井第一小学校」に変更したもので、当時は土地の古老等、一部に由緒ある名前を濫りに変更するなどの批判もあった様であるが、今や札場の由来（江戸時代に高札場があった所）を知る

人も僅かとなり、改称もまんざら悪くはなかったかと考える。

平成十年四月、私たちは大井第一卒業五十周年を記念して、当時唯一ご存命の恩師武井春夫先生（六年竹組担当）をお迎えして同期会を開催し、四十余名の旧友が再会した。往年のガキ大将が立派な経営者になっていたいたり、可愛いおっぱの少女がそのまま可愛いオババに変身していた。その武井先生も今や亡い。まさに光陰矢の如しの感があるが、何と来る新学期には孫が一年生になるのでまたお世話になる。大井第一のご縁はうれしいことにまだ半分続きそうである。

「記憶にしかない」講堂

昭和35年卒業 橋本 典子

大井第一小学校の最初の印象は、知能テストの時、当時「渡り廊下」と呼んでいた入口付近からの風景―雨上がりの白い霧の中にボートと浮かんだ桐の木とヒマラヤ杉の上半分のシルエット―静かで落ち着いた雰囲気である。入学して最初は二部授業で午後一時からだった。簀の子の周りに新しい運動靴が三重に並べられ、校庭で午前の授業の終了を待った。生徒が多くて活気があつ

た。担任は奥富静子先生、しかし梅組は一年生終了と共に先生との別れを早くも経験することになった。お別れ会は寒い日コートを着て、階段が曲ってしまったいたコンクリート製の滑り台の横で記念写真を撮って終った。自分達の力を越えた寂しい別れの最初の経験だった。

三年生頃だったと思うが講堂の建設のため週に一回自宅から古新聞を運んで、それを売って建設費のたしにする計画が実行された。父の母校であるが故の越境入学であった私に古新聞を四十五分さげて歩いて運んだが、その重さは一歩ごとに増し大変だった。講堂が完成した時何か達成感があつて嬉しかったのを憶えている。講堂では「ちえのわクラブ」の収録、四国の人形浄瑠璃「仙台萩」の上演、映画「風の又三郎」等があり、ラジオの収録現場、拍手の強制、義太夫の語り、人形の動き、賢治の幻想的物語、新しい経験ばかりで面白かった。三年生の合奏曲は「風」、それ以来微妙な動き、非人称の動きと風の問題は気になっていた。五年生の時の東京国立博物館見学の宗達の「風神」を見てその表現に感激した。合唱では、よく佐治先生作曲の「さくらんぼのかくれんぼ」を歌った。五年生の音楽の時間にハチャト

リアンの『剣の舞』を聴き、音響的な新しさと繰り返しの多さとその効果に驚いた。

観音開きのテレビを皆で立って見たのも講堂だった。二十年程度前、講堂は既になかった。時代の変化と寂しさを感じた。

「品川区青少年委員の活動」

昭和42年卒業 荻野 正 (旧姓片桐)

大井第一小学校同窓会会報の紙面をいただき、感謝申し上げます。良い機会ですので、青少年委員のことについて、同窓会の皆様を知っていただければと思ひ筆をとりました。

私は、品川区教育長より任命を受け、品川区青少年委員を20年以上勤めております。現在委員は、区内に40名おりまして、委員会を組織し、青少年が健全に育成することを目的に、様々な活動をしております。

一昨年のことですが、大井第一小学校PTA主催で行われた、親子ゲーム大会の際、青少年委員としてお手伝いさせていただきました。これは、委員として学校、家庭、地域や関係諸団体の連携を計る一環としての活動であります。

又、ジュニアリーダー教室の運営や、親子キャンプ、クイズラリー等

の事業を全区民に向けて行っています。これらの活動は、地域の子どもは、地域の大人たちで育成することが重要との観点から行っております。

同窓生の皆様には、このような活動をしている者がいることを知っていただければ幸いですし、次代を担う青少年の為、我々青少年委員と共に活動していただける事を心より願っております。

最後になりましたが、同窓会のみならずのご発展をお祈り申し上げます。結びと致します。

## 同期会だより

### 古稀を迎えたクラス会

昭和5年卒 岡田 一郎  
私達は、昭和五年三月卒業の高年齢のクラス会です。

従って若年組と違い、毎年のクラス会開催は不可能で、この報告も平成十二年五月十九日「古稀を迎えたクラス会」と銘打って行いました。卒業当時、六年松組（柏木四郎先生担任）四十八名でした。

七十年という歳月の中で、当日集合した級友は八名に過ぎませんでした。まず学校を集合場所にきめました。

学校なら目標は明確であるし、学校を見ることによって思い出が湧くに最適でした。

当日は、兒玉校長、大木教頭の接待を受け、学校概要や、校内資料室見学で七十年昔にタイムスリップを感じさせました。

特に、毎時間鳴らされた時鈴の「旅順口の鐘」は心に響くものでありました。

尚、私共クラスの話では、北条誠さんが後年（昭和二十五年、開校七十五周年記念）に校歌の作詞をされたことを心に刻み、この校歌が永遠に歌い続けられることを祈りました。

その後、校庭にあるミミズクのブロンズ像の前で記念写真を撮り、生き残りの級友の健康を喜び、再会を新たに誓って、古稀のクラス会を祝いしました。



### 昭和12年卒、同期会

昭和12年卒月組 山崎 浩子

私達月組は幸せな事に、低学年受持の旧姓吉川先生が90才を過ぎた今

もお元気なので、殆ど毎年、クラス会を開いております。

そんな中「喜寿の年を記念して同期会をしましょう。」と他のクラスから声

がかかり、月組も大賛成とばかりに、早速各幹事が相寄り日13年11月18日品川プリンスホテル品川大飯店で何十年ぶりの同期会を致しました。

松組は「もう最後のクラス会をした。」という事で不参加。竹組7名、梅組10名、雪組6名、月組4名の計27名が集まりました。当日は好天に恵まれ「あなた、どなた？」という事もありましたが、とても楽しい会になりました。幼な友達っていいなとつくづく感じた次第です。次会には今回以上出席者が減らないで、元気で再会したいと思えました。



### 喜寿同期会

昭和13年卒 佐々 峰子

11月9日（土）大井第一小学校昭和13年卒の「喜寿同期会」を、大森東急インで正午より開催致しました。参加者は男性19名、女性13名、

「喜寿のお祝い」というのにほとんどが「77才を実感したくない」という顔をしたばかり。

でも前回平成12年以降、8名の方が他界され、回を重ねる度に同期の人数は少なくなっています。

「男女7才にして席を同じうせず」の時代に育った私たちは、毎回男女の席を自然に区別してしまいます。今回もおのずから男女それぞれに円卓を囲みましたが、年を追う毎に部屋の空気は何とも云えず心地よいほのかなものとなり、その空気を一段となごやかにして下さったのが石坂雅彦さんの「ヨーガの実演」でした。一同息をのんで拝見しました。「股割り」で前の床におでこがぴたっと付きました。石坂さんは「継続は力なり。80才になったらもつと柔らかくなる」とおっしゃっています。乞うご期待です。

また村田照子さんは喜寿の祝にちなんで日本舞踏「松の緑」を踊って下さいました。5才から始められた年季の入った見事なおどりで、凜とした雰囲気वादだよわせ、我々の目を釘付けにしまいました。

アルコールが入るにつれて会場の空気もぐんと盛り上がり、小柳道男さんの初恋物語で何かほっとしたり、毛利敦男先生の「前立腺」のお

話で現実に引き戻されたり、小堀情次さんの「ルバング島生き残りの小野田寛郎ご夫婦」とのびっくりする様なご交際のお話し等、実に盛り沢山な内容で、あつという間に時間は過ぎてゆきました。おわりに参加者一同小学生にもどった気分で、なつかしの小学唱歌「紅葉」「故郷」を高らかに合唱し、もう気分は最高でした。「同期っていいな。同い年っていいな」と参加者全員心地よく、又しつかりと思いい出を胸にしまいこんで解散しました。

同期会開催報告

昭和16年卒 宮内 利雄

過日同窓会の委員会の席上で、ついでに滑り昭和16年3月卒業の同期会の自慢話をしてしまったところ、「オッ、その話し、次号の会報にのせろよ」と云う事になり心ならずも筆を執る次第、要するに各クラス会・同期会を開催したら気楽に寄稿してもらおうと言いきっかけにされた訳です。

私たち昭和16年3月に卒業した者は、昭和3年・4年に生まれた者の学年で、現在でも新生銀行の頭取を勤める八城政基君や大井町の名医浅野真君の如く現役で頑張っている方々も居ますが、概ね年金生活者が

多く、ただ集まって昔話に花を咲かせる場所さえあればよく、昨年は幹事が昔勤めていた会社の厚生施設・今年品川プリンスホテルのバイキング等比較的安上がりな所を選んでいきます。

また、平成11年には皆さんの古稀・13年には第一小学校卒業後60周年(還暦)等と理由も付けています。

開催は、ここのとこ毎年ですが幹事が怠けて間を開けてしまう年もあります。幹事は松組・竹組(当時は松竹が男子・梅雪が女子・月が早生まれの男女、このクラスは前年の4月に生まれた子供と体力・知力の差を考慮したものらしい、私も1年生だけ月組でした。)が交互に担当することになり梅組・雪組から仰せつかって実行しています。最近女子は強くなりましたね。

現在住所の判明している同期生は105名、同期会への出席者は例年45名程度と5割に僅かに足りませんが、沖繩からは屋部公子さん・加古川市からは井手哲哉君など遠方からの出席もあり楽しい時間を過ごしています。

私は怠け者で、スナップ写真・集合写真の送付が煩わしく会としては撮さないことにしていますので、4年前の集合写真を添えておきます。

さて、自慢話の本題は以前よりクラス会をもっていた梅・雪組から20年程前に松・竹組に「合同の同期会に発展させないか」と話があり以降クラス間の連絡・クラス内の連絡が密となり前述のように同期会が開催されております。

ここで話が変わります。私はコレ又心ならずもここ10余年同窓会の会計を担当させられている関係から、卒業年度別・クラス別に整理している同窓会費の振り込みが毎年昭和16年卒が一番である事を承知しており、これが親密な同期会と関係があるのではないかと我田引水の話で汗顔の至り。

ところで私達の喜寿の同期会まで



にはまだ3年の間があるから来年はどんな名分で同期会を開催しようかな。

皆さんも、クラス会・同期会を開催したら、成る可く同窓会まで報告をお届けしてください、それがまた同窓会を充実してゆく一助になると思いますので是非お願い致します。

松崎先生の喜寿のお祝いの会に思う

昭和25年卒業 藤川 敏 (大井第一小学校医)

私は5歳の時、小児結核に罹り空気の良い山梨の母の実家の祖父母に預けられ地元の小学校に入り、4年生で大井第一の松崎滯子先生の組に転校してきました。

田舎ではそれなりに活発であったと思っていました。東京に帰ったとたん「おとなしい藤川君」になってしまいました。

医者になって6年目にウィーンでの国際小児科学会で初めて発表する機会がありました。米国の高名な先生と隣り合わせになり感激でしたが、かえって興奮が高まる中、「何回やっても私だって同じだよ」とその先生に励まされ、漸く発表が終わったとたん「滯子先生やりましたよ」とつぶやきました。

何故なのか分かりませんが、家族でも、恩師でもなく滯子先生なので

した。「あのおとなしい藤川君が！」  
 と言うだろうという深層心理かも知  
 れません。以来度々の国際学会で発  
 表の際にも先生のお顔が思い浮かぶ  
 のです。小学校の先生は生徒にとっ  
 ては幾つになっても先生であり、何  
 でも吸収する子供達にはいつまでも  
 大きな存在なのです。

その松崎藩子先生の喜寿お祝いの  
 ため昨年9月、我々65歳組とちよう  
 ど10年後に受け持つてもらった組の  
 46名の生徒が集まりました。17年前  
 の還暦祝いのクラス会は、先生にだ  
 け内緒で合同の企画をし、当日進行  
 中に二組のご対面で先生を驚かせ、  
 大変感激していただいた楽しい想  
 いが皆にあります。17年振りで皆それ  
 なりに年は取りましたが、前回と同  
 様楽しい会になりました。今でも尚  
 大きな先生の存在感と、先生も含め  
 て皆大井第一の同窓生であるという  
 仲間意識が、世代が違う二組一組の  
 クラス会に違和感のない和やかさを  
 生んでいるのでしょう。

昭和25年卒業組には初めて出来た  
 校歌に特に思い入れがあり、岡田英  
 二君から校歌を書いた額が先生に  
 贈呈されました。フィナーレは先生  
 のピアノ伴奏のテープに合わせ、校  
 歌を5番まで大斉唱し再会を約して  
 お開きとなりました。

## カメラマンの池田さん

(対談記録)

昭和30年代以降の卒業生は「大井  
 第一の写真屋さん」として森商会の  
 池田さんを知っている人は大勢いる  
 と思います。その池田さんにお話を  
 伺います。  
 (編集部)

Q 大井第一の写真を書きようになっ  
 たのはいつ頃からでしたか。

A たしかS32年頃、4年生の村山貯  
 水地への遠足が最初でした。

Q 卒業アルバムづくりを始められたの  
 はS35年度卒の子ども達からとか？

A そうです。今、55才になる卒業生  
 です。急にアルバム作りの依頼を  
 受けたので、どうしたらよいのか  
 見当もつかず、先生方に教えても  
 らったり、以前のアルバムを参考  
 にして、見よう見真似で作しまし  
 た。私も20代半ばで、若さでやっ  
 た。という所です。

Q 今とくらべてどのようなやり方で  
 したか。

A あの頃はカラー印刷もなく現在の  
 ような(オフセット印刷)とは  
 違って原稿にフィルムそのものを  
 張る(コロタイプ印刷)というも  
 のでした。

Q 学校行事の撮影には殆ど池田さん

が来ておられましたね。

A 入学式、卒業式、遠足、林間、移  
 動教室、運動会等、いろいろです

Q 記念撮影の時の子ども達は、ふだ  
 んと様子がちがいますか。

A 今の子ども達はカメラ馴れしてい  
 るので変わりませんが、昔の子ど  
 もは緊張していました。私も若  
 かったので「動かないで。こっち  
 を向いて。」と思ったりして。写す  
 方の緊張も伝わるのでしようね。

Q 池田さんは林間学園についてくわ  
 しいので、その辺の事を聞かせて  
 ください。

A 大井第一だけで38回位、行ってい  
 るでしょう。以前は6年生だけ  
 だったのが、その後5年生も行く  
 ようになったので……。実際は  
 もっと多くなるかな？

Q 学園生活の面白いお話があったら  
 どうぞ。

A 主に裏方の仕事を手伝います。  
 キャンプファイヤーは楽しいけれ  
 ど準備が大変です。薪割りや、薪  
 の組み方などをやります。又何回  
 も日光に行っているので土地案内  
 の裏方などもやりますよ。

Q 学園生活の中の子ども達の評判は  
 どうですか。

A 大井第一小はいつも学園の支配人  
 さんにほめられますよ。「第一小

は先生が大勢なのに指示系統が  
 はっきりしていて、実にきちんと  
 している。」と、僕もそう思います。

Q 学園の食事も昔とはずいぶん違  
 うでしょう。

A 昔はカレーが最高でしたが、今はス  
 テーキや、シチュー。それにデザー  
 トがアイスクリームとか。(編集部  
 ワァーすごい)名物の湯葉が出た時  
 「先生、皮をむいていたら食べる  
 所がありません。」なんて。

Q 池田さんが日光で叱られた事が  
 あったとか。

A そうそう、「立ち入り禁止」と書  
 いてあった場所に入ってしまった  
 入ったら「ダメダメ。子どもが  
 入ってはいけない所に(先生)が  
 入っては。」と叱られました。先生  
 にはないしよで子どもと枕なげも  
 しました。楽しいです。

Q 今でも子どもと同じ気持になれる  
 のですね。だから子どもへの気持ち  
 を掴むのが上手で、子どもも池田  
 さんの言う事をきくのですね。思  
 い出ばかりではなく、池田さんのこ  
 れからの抱負を聞かせてください。  
 A あと何年できるかわかりませんが  
 “子どもが好き”が僕の出発点で  
 あり、子どもの写真をとるのが生  
 き甲斐なので今まで通りにやって  
 いきたいと思っています。

『振替用紙の通信欄より』

・林部伝七先生にいろいろ教えを受けたあのすばらしい設備の手工室は、私の一生の思い出であり今も先生の教育法は私の中に残っています。  
 (S11卒 雪組 磯邊 澄子)

・6年竹組で神崎先生が担任でした。同級生多数で先生の葬儀に出席し思い出にひたりました。  
 (S27卒 竹組 長内 顕)

昔が懐かしくなってきた世代。学校や皆様の様子がわかり毎回楽しみにしています。しかし物故者の中に知っている先生のお名前を見る事が多くなり寂しいです。下記に転居致します。  
 (S32卒 竹組 橋本 綾子)

・老人(82才)となりクラス会が出来なくなりました。クラス会の余り金一万円を同窓会に寄付いたします。  
 (S7卒 雪組 佐藤 通子)

・同窓会を支えておられる幹事の皆様に感謝しています。会報を通して交流を深め、良い同窓会を育て下さい。  
 (S13卒 竹組 荒木田清瀬)

・メールに添付してご送付いただいた校歌を時々聞いています。  
 (S14卒 竹組 大谷 和夫)

・5月5日のテレビで大井第一小の名前が出てびっくり。今でも有名校で、卒業した私としては鼻が高いです。  
 (S16卒 梅組 松本 道子)

・私の卒業したS19年の同期でクラス会や同期会を開く時はお知らせ下さい。地方在住が永く連絡がなかったのです。  
 (S19卒 松組 村山 観)

・第4号の「大井町の移り変わり。」研究部員の伝川君達5名と同級。なつかしく拝見。皆さん元気ですか？  
 (S37卒 梅組(旧・井上)池上和子)

・同窓会報をなつかしく興味深く拝読致しました。松崎先生の記事に驚き、同期の豊間根さん中村さんの文には「全く。」とうなづきながら読みました。  
 (S25卒 梅組 吉村 陽子)

・校歌の5番について話題になっていますね。6年生の時が110周年で5番を歌った覚えがあり今も歌います。  
 (S61卒 月組 小野沢江美)

・現在ベトナムホーチミンで元気に頑張っています。よろしく。  
 (S15卒 梅組 飯塚 正)

☆沢山の方からのミニお便り感謝しております。紙面の都合上、カットさせて頂きお許しください。

平成13年度 収支決算報告 (H13年4月1日~H14年3月31日)

収 入		支 出	
11年度より繰越	2,665,408	会費振込手数料	16,920
会費入金(13年分)	551,000	会報関係費	5,000
会費入金(13年分)	1,000	(印刷費)	(5,000)
寄付金	5,000	(発送費)	
預金利息	156	集會費	10,290
13年度卒業生入会金	30,900	通信費	5,700
		その他	36,401
		繰越	3,179,153
計	3,253,464	計	3,253,464
		普通預金	674,682
		郵便貯金	2,415,271
諸勘定残高		現金	89,200
平成14年3月31日現在		合計	3,179,153

(注) 会報関係4号の支出1,090,362円が14年度に繰り越されました。

平成14年度 収支中間報告 (H14年4月1日~H14年12月31日)

収 入		支 出	
13年度より繰越	3,179,153	会費振込手数料	56,950
会費入金	1,565,254	会報関係費	1,090,362
		(印刷費)	(658,942)
寄付金	34	(発送費)	(431,420)
預金利息		集會費	2,362
13年度卒業生入会金		通信費	1,000
		その他	20,000
		繰越	3,573,677
計	4,744,441	計	4,744,441
		普通預金(総合)	3,442,329
		郵便貯金(振込)	36,600
諸勘定残高		現金	94,748
平成14年12月31日現在		合計	3,573,677

(注) 会報5号の支出は増頁により1,200,000円程度が見込まれます。

### 投稿のお願い

大井第一小は、長い歴史に支えられ、良き伝統が脈々と流れ、後輩達に受け継がれています。しかし、時代背景や世相の違いにより、思い出も異なるものをお持ちでしょう。「文字」にして残しておきたい思い出等がありましたら、投稿をお待ちしています。

10月30日までに、Eメールで、森か松本宛にお送り下さい。

### 会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、会報等の印刷代、通信費、事務費、母校に関わる慶弔費等の諸費用がかかります。平成14年の会費納入者は八〇〇名で約七〇〇〇名に第四号会報を送ることができました。これから安定した同窓会活動を続けていくために、会費納入に皆様のご理解とご賛同を心よりお願い申し上げます。

一口 一〇〇〇円

同封の振込用紙をご利用頂き、五月末までにお振り込み下さい。

### 名簿の資料提供にご協力を!!

同窓会事業の一環として、会員名簿や会報の発行があります。

より正確で完璧に近い名簿づくりを努めています。会報第4号の宛先不明による返却状況を見る限り、思うようにいっていないのが実状です。つきましては、各卒業年度の同期会やクラス会の幹事の皆様、新しい名簿を作成されましたら、是非とも下記の編集委員、又は学校に封書、葉書で提出をお願いいたします。又、会員個人の住所変更、情報等もお知らせ下さい。更に、各卒業生担任の先生方のお手元に資料がございましたら、ご提出くださいますよう、お願い申し上げます。

### 同期会・クラス会の幹事さんへ

ご連絡いただければ、同窓会(名簿委員会)で把握している住所の資料をシールにて提供します。(事務局まで)

北朝鮮に拉致された「横田めぐみ」さんは、鹿島神社の近くに住み、小野学園、そして大井第一小1・2年に在籍していました。

### 第4回定時総会のお知らせ

日時 平成15年4月26日  
午後2時

場所 大井第一小学校

- 1、事業報告及び収支決算の承認
- 2、事業計画及び収支予算の承認
- 3、役員改選の承認
- 4、その他本会の運営上特に重要な事項

同封の振り込み用紙内の通信欄にて出欠席のご返事をお待ちしています。

### 物故者

平成一三年六月

高梨 芳久先生(昭和42年〜52年)  
謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

### 編集後記

寄稿して下さいました皆様ありがとうございました。

第五号では会費振込用の通信欄に多くの皆様からのお便りを頂きました。これからも会員各位のご協力ご理解で会報の充実を図っていききたいと思っております。

ご意見・ご感想等もお寄せ下さい。

### 同窓会事務局

全ての連絡事項は左記宛に願います。

森 秀雄

(昭和34年卒 副会長)

TEL 〇三―三七七三―〇五〇六

E-mail:hide@mori-shoukaico.jp

松本 徳太郎

(昭和35年卒 副会長)

TEL 〇三―三四七二―〇二八六

E-mail:mats745@cts.ne.jp

〒一四〇―〇〇一四

東京都品川区大井六一―一三二

品川区立大井第一小学校

同窓会事務局

TEL 〇三―三七七一―五二四〇

FAX 〇三―三七七一―五三四八

http://www1.cts.ne.jp/~oichi/

### 編集委員

昭和13年卒 松崎 淳子

昭和34年卒 森 秀雄

昭和35年卒 東山 周子(兼村)

昭和35年卒 上野 良子

昭和35年卒 松本徳太郎

昭和42年卒 井上 幸子(山崎)

昭和49年卒 三戸 美子(山口)